

基本情報	氏名	作物名	作型等	収穫終了月
				月

1 生産方式の内容

(1) 有機質資材施用技術

	目標年までに実施する生産方式	省令技術実施状況(該当欄に○を付す)			導入する資材等の名称
		計画以前と変わらない	新たに導入する	計画以前も行っていたが内容を改善	
有機質資材施用技術	たい肥等有機質資材施用技術				
	緑肥作物利用技術				
	補足説明 (導入・改善関連)				

注 「有機質資材施用技術」は、法第2条第1号に規定する技術をいう。

【資材の内容】

	資材名	N成分(%)	C/N比	施用時期(月)	現状		目標		購入先 (自給の場合は自給と記入)
					施用量(kg/10a)	窒素量(kg/10a)	施用量(kg/10a)	窒素量(kg/10a)	
有機質資材施用技術									
	合計								

(2) 化学肥料低減技術

	目標年までに実施する生産方式	省令技術実施状況(該当欄に○を付す)			実施する栽培技術の説明
		計画以前と変わらない	新たに導入する	計画以前も行っていたが内容を改善	
化学肥料低減技術	局所施肥技術				
	肥効調節型肥料施用技術				
	有機質肥料施用技術				
	①有機質肥料				
	②家畜ふん由来たい肥				
	補足説明 (導入・改善関連)				

注 「化学肥料低減技術」は、法第2条第2号に規定する技術をいう。

【資材の内容】

資材名	成分(%)				肥効率(%)	現状			目標			備考
	N	化学N	P	K		施用量(Kg/10a)	施肥窒素総量(kgN/10a)	化学由来窒素量(kgN/10a)	施用量(Kg/10a)	施肥窒素総量(kgN/10a)	化学由来窒素量(kgN/10a)	
化学肥料低減技術												
	合計											

(3) 化学合成農薬低減技術

目標年までに実施する生産方式	省令技術実施状況(該当欄に○を付す)			実施する栽培技術の説明
	計画以前と変わらない	新たに導入する	計画以前も行っていたが内容を改善	
温湯種子消毒技術				
機械除草技術				
除草用動物利用技術				
生物農薬利用技術				
対抗植物利用技術				
抵抗性品種栽培・台木利用技術				
天然物質由来農薬利用技術				
土壌還元消毒技術				
熱利用土壌消毒技術				
光利用技術				
被覆栽培技術				
フェロモン剤利用技術				
マルチ栽培技術				
補足説明 (導入・改善関連)				

注「化学合成農薬低減技術」は、法第2条第3号に規定する技術をいう。

【資材の内容】

分類	散布回数		備考
	現状	目標	
殺虫剤			
殺菌剤			
除草剤			
その他			
総回数			

※殺虫殺菌混合剤の場合は、殺虫剤、殺菌剤それぞれの回数に含めて記載する。

【添付資料】

- 持続性の高い農業生産方式を導入する作物を栽培するほ場の位置を判別することができる地図
(各ほ場で栽培する作物名が分かるもの)
- 持続性の高い農業生産方式を導入する作物を栽培するほ場の土壌診断結果
- その他技術導入の説明に必要な資料

(4) 10aあたり収量

現状(kg)	目標(kg)

注「収量」については、「現状」に過去5年間における収量の平均を記入し、「目標」に生産方式の導入による収量の目標を記入すること。